

乳児のためのベビーチェアとテーブル

Baby chair and table

掛野さくら

指導教員 谷上欣也

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

現在、保育園で使用しているベビーチェアにはさまざまな問題がある。現地調査を行いその中から正しい姿勢で座れないこと、食事を全員が同じ机でできないことを問題として取り上げた。アレルギーを持つ乳児への対応も考慮したベビーチェアとテーブルをデザインする。制作したものを通して、子どもの食べることへの興味や楽しさを引き出すことを最終的なねらいとする。

キーワード：保育園、ベビーチェア、テーブル、食事

1. 研究目的

母が勤務している保育園のベビーチェアが食事をするときに使いづらいということを知った。椅子とテーブルが一体のローチェアを使用しており、1人座りができるようになったばかりの乳児には背もたれと机の間が広すぎて姿勢が悪くなるだけでなくご飯をうまく食べられない。そこで、乳児が食事をするときに使いやすく、正しい姿勢で食べられるベビーチェアとテーブルを提案する。

2. 調査内容

2.1. 既存のベビーチェアとテーブルについて

保育園での使用を想定し背もたれと体の間にクッションを入れてテーブルとの距離を調節できるものやベビーチェアについている足置きの高さが何段階かに調節できるものがあった。他にも、同じものを長く使ってもらえるように上下をひっくり返すことで高さの変わるもの、床に座るとベビーチェアがテーブルとして使えるものなど様々な種類のベビーチェアが販売されている。テーブルは丸い形で子どもと先生が対面できるものがある。

2.2. 離乳食に関して

離乳食を開始する目安を調査した。月齢を目安にしている母親が全体の75.8%と最も多く、次いで食べ物を欲しがらなくなったことを目安に離乳食を開始した母親が47.5%、体重などの発育状態を目安にした母親が16.8%ということがわかった。この調査によると5ヶ月頃から離乳食を与え始め、12ヶ月～15ヶ月

頃までに離乳食を完了する家庭が多く、年々離乳食の開始・完了ともに時期が遅くなっている傾向がある。次に、離乳食を与える時に気をつけるべきことについて調査をした。離乳食を通して色々な食品の味や舌触りを楽しむ、家族と一緒に食卓を楽しむ、手づかみ食で自分で食べることを楽しむといったように、食べる楽しさの体験を増やしていくことが重要であることがわかった。そのために一人一人の子どもが食べる力を育むための支援を大人がおこなわなければいけないと考えられる。

2.3. 実地調査

実際に保育園に行き調査を行なった。乳児と一緒に生活して以下のことがわかった。

1. 保育園では4ヶ月頃から離乳食が始まる。
2. テーブルを支えにして座面の上に立ち上がってしまう子どもがいる。(図1)



図1 保育園で実際に使用されている椅子

3. アレルギーを持っている子どもは食事の時に他の

子どもと離して座らせ、誤食を防ぐ。子供1人に対して先生1人がついて食事の補助をする。ベビーチェアに何のアレルギーを持っているのかが貼ってあり、誤食を防いでいる。

4. アレルギーを持っている子ども以外ベビーチェアについているテーブルは使わない。

5. 食事は1人ずつ名前の貼ってあるお盆に乗せられて給食室から運ばれる。

6. 11ヶ月前後からベビーチェアではなくテーブルのついていない豆椅子を使用しはじめる。

3. コンセプトおよびアイデア展開

コンセプト: 正しい姿勢で楽しい食事

体に合わせてサイズを調整できるようにすることや、足置きを置くなどそれぞれの子どもに合わせた工夫を考え、正しい姿勢で全員が楽しく食事できることをコンセプトに掲げる。食事の時間が楽しくなることで食べることにもっと興味を持ってもらうことをねらいとする。

アイデア展開

- ・調査から、ベビーチェアについているテーブルを使っていない現状がある。これを踏まえそれぞれを別々にして、テーブルと体がフィットするようにする。

- ・現在のベビーチェアには足置きがないことから安定して座れるように足置きをつける。

- ・離乳食を食べるときはみんなで食べた方がいいことがわかったので、アレルギーを持っている子供も一緒に食べられるような工夫を考える必要がある。

4. 提案内容

コンセプトや、調査内容を元に複数の案を展開している。

A. ベビーチェアとテーブルが一体

アレルギーを持っている子どものためにテーブルは残しておく。背もたれをリクライニング式にし、子供の体に合わせて間隔を調整できるようにする。また、テーブルを取り外し可能にすることで、現在のように2種類の椅子を用意する手間を省く。子どもが手を挟まないように構造を考える必要がある。

B. ベビーチェアとテーブルを別にする

ベビーチェアについているテーブルをなくし、全員で一つのテーブルを囲むことで食べることの楽しさを味わうことができるのではないかと考えた。大きなテー

ブルとそれに合わせた小さな椅子をセットにする。椅子に体を固定できるように足置きやベルトを取り付けることを検討している。テーブルは食べこぼしや先生方の手間を考え、子供同士が向かい合わないようにはず向かいに座れるように設計する。子供の体に合わせた凹みを天板につけることで簡単に立ち上がらないように、またお腹への圧迫を軽減する。先生が全員を見渡せるような配置を考える。(図2)

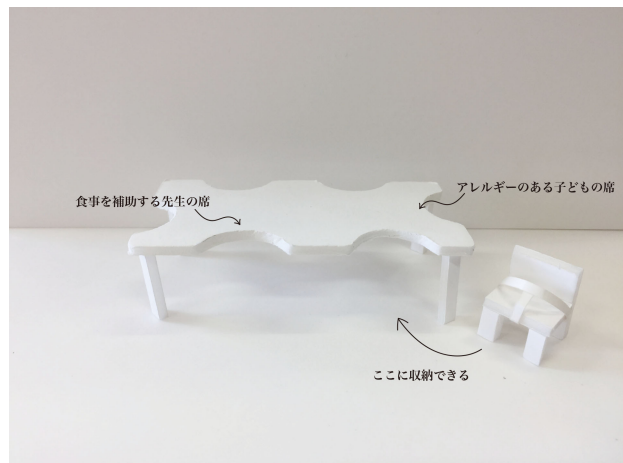


図2 B案のテーブルとベビーチェア

5. 今後の展開

実際の1/1サイズでそれぞれのモデルを制作し、最終的には乳児に使用して食事をしてもらう。食事を補助する先生方の意見を聞いて検証を行う予定である。

収納方法についても検討中で机の凹みに椅子がおさまるような設計にする。机だけのスペースがあれば足りるようにすることで、教室を今よりも広く使うことができる。

6. 参考文献

[1]授乳・離乳の支援ガイドの策定について:3離乳編
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/dl/s0314-17c.pdf>

[2]cofa:イス <http://www.cofa.jp/sp/item/?m2=14>

[3]学研:保育用品カタログ椅子

<https://catalog.hoikucan.jp/category/09/050>

[4]MiKi HOUSE:出産準備サイト

https://baby.mikihouse.co.jp/assets/pdf/mikihouse_chart1.pdf